

普及情報

日本のへそ 西脇市における「日本のへそゴマプロジェクト」の取り組み

はじめに

西脇市農業の活性化のため、「西脇市」「日本のへそ」「へそのゴマ」「ゴマ」の発想のもと、ゴマの栽培に着目し、2007年10月に市、JA、普及センターによるプロジェクトチームを発足させた。大阪にあるゴマ専門の卸会社との出会いがあり、国産ゴマの自給率は0.1%（160t）で、国内産地はほとんどなく、なかでも、「金ゴマ」に対する需要が特別高いことが分かった。この金ゴマのブランド化を西脇市農業の活性化の大きなチャンスとしてとらえ「日本のへそゴマ研究会」を立ち上げ、2008年度から栽培を開始した。

普及活動の内容

プロジェクトチームの役割分担を明確にし、市が事務取りまとめ、JAが販売流通、普及センターが栽培技術に関する役割を担うことにした。しかし、栽培に関する実績や栽培暦などが全くなく、また、農家も本当に栽培できるかどうか不安視する声もあったため、播種や中間管理、収穫、調製などのポイントでの講習会を度々行い、実証ほを設けて現地研修を行なった。また、以前からゴマを栽培していた農家に栽培の経験談を話してもらったり、現地研修で管理のコツなどについて実演してもらい、地域のけん引役としての役割を担ってもらうなど、農家の不

安を取り除く工夫を凝らしながら栽培を推進した。

活動成果と波及性

研究会員71名、栽培面積2haで栽培を開始し、収量は目標にしていた50kg/10aを大幅に超えて、85kg/10a、全体で1,700kgの金ゴマ（20年度の販売実績単価：2,100円/kg（税込））を出荷できた。また、品質も素晴らしく味も抜群であったため、西脇市産の金ゴマだけを使用した「金播磨」というプレミアム商品として販売していただくことができた。また、国産で産地表示があるゴマ商品は、全国的にも希少な存在であり、将来のブランド化が期待できることがわかった。

農家は、自分たちが生産した金ゴマが、目に見える形で全国に流通・販売できたことに対し、誇りと自信を持つことができ、より品質の高い金ゴマを生産しようという意欲に燃えている。

2009年度は、隣の多可町においても、会員を募り生産を開始することになっている。将来的には、さらに生産拡大（当面の目標：5ha）を図り、北播磨地域を日本一の金ゴマ生産地として育てていきたい。

廣瀬 泰徳（加西農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0790-47-1448）



図1 収穫講習会の開催



図2 商品化された西脇市産金ゴマ「金播磨」

携帯サイト（病害虫防除情報）を開設しました。（今年6月から運用中）

水稲、たまねぎ、レタス等12作物の病害虫発生予報及び病害虫発生注意報、警報等
BLASTAM（いもち病発生予測）情報：毎週1回更新し、掲載
携帯サイトのアドレス <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/mobile>



QRコード

ひょうごの農林水産技術 No.164

平成21年7月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

21農P2-001 A4